

地球環境パートナーシッププラザ 20周年に向けて②

パートナーシップの加速につながる新しい取組や方向性の芽を探るべく、GEOCでは「パートナーシップの未来を切り拓く・本音で語る座談会リレートーク」を企画した。これは、日本における従来のパートナーシップを振り返りつつ、これからの社会に求められるパートナーシップの形を探ることを目的としたもので、各回異なったテーマに即した3名のゲストを招き、連続するトークのバトンをつないでいくという趣向だ。

「市民社会とパートナーシップ」をテーマに開催した第1回（2015年12月）のゲストは黒田かをり氏（一般財団法人CSOネットワーク 理事・事務局長）、広石拓司氏（株式会社エンパブリック 代表取締役）、船木成記氏（尼崎市顧問、博報堂ディレクター）で、総合司会を佐藤真久氏（東京都市大学環境学部教授）がとめた。

「パートナーシップという言葉は同じでも、1990年代に見ていたものと20年後の今では、その意味合いが異なっているのではないかと（黒田）」「若者はコミュニティへの関心が高い。けれども無自覚に同質性を求めてしまい、多様性を損なってしまう危険性もある（広石）」「最大の地域資源は協働力。地域には課題があふれかえり、困った人を支えるのも限界だという状況とどう向き合うかが問われている（船木）」「日本にもともとあった『私たちの学習』は、



毎回ゲストを招いて実施するリレートーク

いつの間にか『私の学習』になり、社会の学びの機会が減少してしまった。そこに場づくりの必要性があるのだろう（佐藤）」といったメッセージをもらった。

GEOCに対する期待としては「GEOCに関わったことで、何かが変わるきっかけを与えられれば成功」「意思を持った情報編集に期待したい」などの発言があった。

第2回以降は「持続可能な生産・消費とパートナーシップ（2/24）」「生物多様性とパートナーシップ（3/16）」「レジリエンス社会とパートナーシップ（3/23）」などを予定しているので、ぜひ一般参加もしてもらいたい。どのような課題や可能性、またGEOCの役割が見えてくるのか。20年という節目だからこそできるイベントにしたい。

（文：一般社団法人環境パートナーシップ会議 事務局長 平田裕之）

【つな環】第27号

2016年3月発行

編集・発行:

地球環境パートナーシッププラザ

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F
Tel.03-3407-8107 Fax.03-3407-8164
http://www.geoc.jp/

●開館時間:午前10時～午後6時(火～金曜)
セミナー開催時は午後9時まで
午前10時～午後5時(土曜)

●休館 日曜・月曜・祝日・年末年始

環境パートナーシップオフィス(EPO)

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F
Tel.03-3406-5180 Fax.03-3406-5064

●業務時間:午前10時～午後6時
●休業 日:土曜・日曜・祝日・年末年始

■東京メトロ 銀座線/半蔵門線/千代田線
表参道駅B2出口より徒歩約5分
■JR 渋谷駅東口より徒歩約10分

レイアウト・デザイン:光写真印刷株式会社

お知らせ

冊子「協働の現場」を発行しました

全国のEPOネットワークが支援事務局を担う環境省協働取組加速化事業。このたび平成25年度からの事業を通じて見えてきたエッセンスを冊子「協働の現場」にまとめました。地域の課題を協働取組によって解決する際のコツや効果に焦点を当てるもので、誰とどのような協働の場をつくったのか、設計者が担う「中間支援機能」とはなにか、といった各事業を伴走支援してきたEPOならではの分析を掲載しています。環境省では3月31日までの間、平成28年度の協働取組事業を公募しています。お近くのEPOへご相談ください。



地域で協働取組を始める際のヒントになる情報をまとめた「協働の現場」

「つな環」をインターネットからもお楽しみください。
ウェブ版: <http://www.geoc.jp/information/tsunakan>

編集委員

星野 智子、平田 裕之、尾山 優子、藤原 祥子、
今井 麻希子（順不同）